



秋の夜長は読書！ オーディオブック？

11月1日水曜日5時52分、東の空からまもなく太陽が昇ってきます。夜明け前です。明けの明星、金星はすでに月とともに昇っていて美しく輝いています。

この写真に写っているでしょうか。金星は来年の1月くらいまで見えます。

夕方は東の空から木星が昇ってきています。そのあとから冬の星座がどんどん昇ってきます。とても美しい星座たちです。

「夜明け前」と言えば、…木曾路はすべて山の中である…の島崎藤村の作品、青山半蔵が主人公、また、藤村と言えば「破戒」、瀬川丑松、青年教師が主人公…追い詰められていく丑松の心情に胸が締め付けられる思いでした…

私が現役だったころは灰谷健次郎や住井すゑの作品が印象に残っていますが「破戒」を最初に読んだのはいつだったのだろうか…

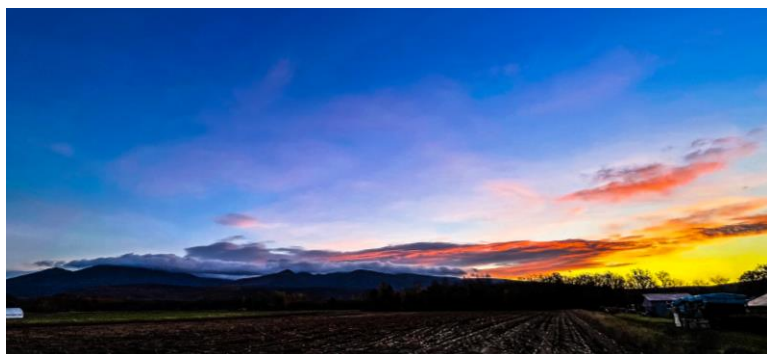
秋の夜長は読書や映画・音楽鑑賞。最近ではオーディオブックもあります。プロの方のナレーターですので、気軽に聴くことができます。ちなみに、源氏物語もすぐに聴くことができます。現代語訳付もありますのでお薦めです。読書の楽しみというのは書店や図書館に行き、じっくりとその本を手にとり、ページをめくることから始まるとも言えます。それも午前がいいですね。

最近は無人のコンビニのような店構えの本屋さんも…

でも、ことぶき大学があるここ市立図書館は最高ではないでしょうか。

さあ、秋の夜長は長編に挑戦してみましよう。

さて、今日は11月29日（水）の実践発表会に向けての学年別研究の時間を一日とりました。



年度計画では10・11回目になります。

コロナ禍の影響で3年間学年別研究の学習時間の確保ができませんでした。初心に戻って各学年の皆さん一人一人協力しながら進めていきましょう。

昨日、7日、本科2年生が図書館に集合し本日の打ち合わせを持ちました。

学年別研究の時間とは課題解決学習の時間です。質の高いコミュニケーションの場でもあり、これからの高齢社会を生き抜く力となるのです。

本日、11月8日（水）の日程

AM・PM： 学年別研究

○学年別研究のテーマ・発表方法・時間・個人発表の提出日

○11月8日～11月22日までの間で学年別研究の時間が必要な学年があれば事務局まで気軽に連絡してください。

09時30分 朝の集い

10時00分 学年別研究

本科2学年につきましては午前中、取材に出かけます。

12時00分 昼食 休憩

13時00分 引き続き学年別研究

学年によっては資料が完成し、発表ができる状態であれば、研修室にて事前練習ができるように準備したいと思います。

15時00分 後片付け

もし、学習日以外の日で、サンエーホールを利用して練習することも可能かもしれません。また、当日の発表方法の確認が必要であれば事務局に連絡をお願いします。

次回、11月22日(水)の予定

AM：実践発表会の準備

PM：「コーラス」「踊り」

9時30分 朝の集会

10時00分 学年別研究の準備…実際にPCなど使用して練習をすることも可能です。学年の進行に合わせてます。

12時00分 昼食 休憩

13時00分 「コーラス」「踊り」…実践発表交流会に向けて特にコーラスでは手話も一緒に練習しましょう…

14時20分 後片付け 下校

必要に応じて学年別会議もできます。事務局に連絡してください。



市総合文化祭

第56回富良野市総合文化祭が盛大に開催されました。久しぶりに、祝日の3日は朝から東山公民館、そして山部生涯学習センターへ、午後は文化会館と3会場を回りました。

東山校では伊賀さんと坂本さんの作品、そしてOBの長田さんの作品などもありました。恒例になりました東山フォトコンテストを見て、帰りはパンを購入、山部会場に向かいました。湖に写る風景画がとても印象に残っています。



山部会場ではことぶき大学山部校の作品が展示されていました。

「私は誰でしょう？」…なかなか面白いアイデアに発展した作品でした。

神経衰弱のゲームのようになかなか名前と一致しない！？のです…というのは若い頃！の写真だからです…

ややしばらく楽しませてもらいました。

この作品については、午後、文化会館にて山部校の一永さんと立ち話しをしているうちにその理由がわかりました。

「私は誰でしょう？」今度は富良野校でも……



また、翌日4日は午後6時から展示作品の搬出作業もありましたので、ことぶき大学の皆さんと一緒に7時過ぎまで作業をしました。

新しい文化会館になり、とても広く、明るい会場ですので、話しも弾み楽しい搬出作業でした。

コロナ禍の影響も少なくなった今回の総合文化祭では入場者数も増えたのではないのでしょうか。この作品の一部は今後ポッポブリッジに展示する予定です。

皆さんお疲れさまでした。



ティータイムコーナー!

<卓上四季>美の極致 2023・11・6 (道新より)

明治から終戦直後にかけて美人画の代表的画家として活躍した上村松園(うへむらしょうえん)についての記事が一昨日の6日の道新に掲載されていました。現在、道立近代美術館、苫小牧市美術博物館でそれぞれ開催中の展覧会で作品を鑑賞できるようです。(略)

皆さんはこの「序の舞」の記念切手を見たことはありませんか。

1936(昭和11)年に制作された『序の舞』は上村松園の代表作品として広く知られています。

逆手に扇子を持った右手には振袖がかかっています。このことから一瞬前にあったであろう激しい動きが伺われます。

また、この下の絵は「焰(ほのお)」この題材は源氏物語に登場する六条御息所をヒントに描いたとのこと。

光源氏の正妻である葵上の懐妊を知って生霊と化した六条御息所を、髪の手を噛んで振り返る姿で表現しました。

青白い顔に描かれた吊り上がった眼には、裏側から金泥がほどこされています。これは、謡曲の師である金剛巖から、能楽では嫉妬をあらわすときに白眼のところに金泥を入れた面を使うことを教えられたためです。誇り高い六条御息所は光源氏の正妻葵の上への屈辱と嫉妬から生霊になり葵の上を取殺してしまう。

そんな女性を描いた…後れ毛を噛む女の着物には藤の花と蜘蛛の巣が描かれている。

世界最古の長編恋愛小説の源氏物語ですから、いろいろありますが、この上村松園にも大変興味があります。

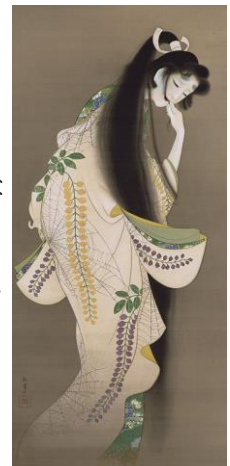
上村松園(うへむらしょうえん、1875年<明治8年>4月23日-1949年<昭和24年>8月27日、日本画家。気品あふれる美人画を得意とした。1948年に女性として初めての文化勲章を受章

～ウィキペディアから引用～

卓上四季の中にも記してありましたが、松園は言う。「女性は美しければよいという気持ちで描いたことは一度もない。女性の美に対する理想やあこがれを描き出したい…」目指す美人画は「真・善・美の極致」。真実に生き、善(よ)く生きようとする姿が人を美しくするという意味に解釈した…この言葉、最高ですね。これは人としての生き方だと私は思います。

上村松園にとっても興味を持ちました。

そして源氏物語にもさらに興味が深まりました。道立近代美術館で11月12日まで開催しています。美術館に寄って、ティータイムにしましょうか……いいですね…




展示室B

札幌テレビ放送創立65周年記念

【特別展】足立美術館所蔵 近代日本画と北大路魯山人展 一和の美、再発見。

日本画や陶芸など2,000点に及ぶ優れたコレクションと、5万坪もの日本庭園で知られる足立美術館(兵庫県宝塚市)。同館が所蔵する近代日本画の名品と北大路魯山人の音・陶芸をご紹介します。

2023.09.16(土) - 2023.11.12(日)

上村松園 絹本着色 1942年(昭和17年) 京大美術館蔵